

# 市民税の減免、市の勝手な運用はやめよ!!

国保料引き下げ12,000人の請願と  
図書館の指定管理者反対

## 市民の声に背を向けた「オール与党」

「国保料を下げしてほしい」との請願署名が一万二千名分、市議会議員長に提出されました。また、図書館に指定管理者を導入することに反対する請願や陳情も出されました。

図書館について、「不信がある。取り下げるべき」と市民連（民主・連合系）も質問しました。それなのに、国保の請願も図書館の請願も共産党以外は反対、否決してしまいました。



昨年から市民税が大幅に増税となりました。市の条例では、生活保護基準の一・二倍以下の所得であれば、市民税を全額免除できるとなっています。この規定にもとづき集団減免申請が出されたのですが、市は銀行預金から生命保険の解約返戻金まで調べると言って、申請者の大半を門前払いにしました。条例にもないひどいやり方だと質問。「市民税の窓口では、ろくに説明もせず申請者を追い返している」「申請した人に、差し押さえをちらつかせて納付を迫っている」と厳しく告発しました。市は、窓口対応や差し押さえ予告などの問題では非を認めましたが、減免拒否の姿勢は変えませんでした。



## 12月市議会一般質問

一月五日から、釧路市議会が開かれ、村上議員は、市民税の減免、ひとり親家庭の支援、阿寒病院の存続、舌辛川の治水の四点を一般質問しました。

その内容を紹介します。



## 阿寒病院診療所化を拒否

自治体病院のうち三八病院を縮小する素案を発表した北海道。阿寒病院は診療所への格下げすると言います。

村上議員は、市長に対して「病院として存続させることが合併の約束。市長として、最大限の努力を」と質問。市長は、「道の計画は、地域性を考慮していない面がある。現体制を基本に地域病院の体制づくりをしたい」と答弁。診療所化せず、病院機能を守りたいと述べました。

企画財政部長は、診療所に格下げになると四千八百万円の交付税が減らされることを明らかにしました。医師不足を逆手にとり、地域医療を切り捨てるようなやり方は許されません。

現体制が必要。きびしい状況を全員一丸となって、地域の医療要望にこたえていきたいと院長先生も言っています。



村上かずしげ

日本共産党

通信 07年 12月 08年 1月号外

発行 村上和繁 (議員控室 23-5212)